

PDFBraindumps



Latest Pdf Braindumps	Top Certifications	Top Vendors		
<ul style="list-style-type: none">▶ LRP-614▶ BCABA▶ JN0-740▶ 250-405▶ DS-200▶ SDM_2002001040▶ ST0-250▶ H12-221▶ M2180-716	<ul style="list-style-type: none">▶ ISEB Certification▶ OCE▶ NVIDIA Certifications▶ Network+▶ IBM Certified Integrat▶ CCDH▶ IBM Certified Advanc▶ eserver Certified Spe▶ SAP-Certifications▶ Network Appliance N	<ul style="list-style-type: none">▶ HCNP▶ IFPUG Certifications▶ dotMobi Certification▶ SCMA▶ MCSD▶ NCLP▶ XMLMaster Certificat▶ CS5▶ CHA	<ul style="list-style-type: none">▶ ISEB▶ ASTQB▶ Aruba▶ Data Center Universit▶ HRCI▶ CIW▶ Patchlink▶ International Consorti▶ Acme-Packet	<ul style="list-style-type: none">▶ Fortinet▶ Ericsson▶ Liferay▶ Novell▶ Huawei▶ RSA▶ MYSQL▶ ISM▶ CheckPoint

<http://www.pdfbraindumps.com>

Latest pdf braindumps provider, high pass rate

Exam : **1z0-052-JPN**

Title : **Oracle Database 11g:
Administration I**

Vendor : **Oracle**

Version : **DEMO**

QUESTION NO: 1

最近、データベースのスキーマの特定のオブジェクトに関する統計を収集しました。しかし、統計収集の2日後に、これらのオブジェクトに対するクエリの実行計画が準最適になっていることがわかります。

オプティマイザ統計の保存期間は、デフォルト値に設定されています。

以前の一連の統計をオブジェクトに使用するのに役立つアクションはどれですか？

- A. 統計履歴から統計を復元します。
- B. オプティマイザ統計の保存期間を2日短縮する。
- C. OPTIMIZER_PENDING_STATISTICSパラメータをTRUEに設定します。
- D. 自動ワークロード・リポジトリ (AWR) の保存期間を2日短縮します。

Answer: A

QUESTION NO: 2

監査情報をより生産的にするために、DBAは監査操作を開始する前に次のコマンドを実行します。

```
SQL>ALTER SYSTEM SET AUDIT_TRAIL=DB,EXTENDED SCOPE=SPFILE;
```

データベースの再起動後に監査が開始されたときに生成される監査レコードに関して、真であるのはどちらですか？

- A. ユーザーが実行したSQLステートメントのプランのみが含まれています
- B. これには、ユーザーが実行するSQLテキストと、それに使用されるバインド変数が含まれています
- C. これには、ユーザーが実行したSQLステートメントに関連付けられた計画と統計が含まれています
- D. これには、ユーザーが実行するSQLステートメントの計画と、そのステートメントで使用されるバインド変数が含まれています

Answer: B

QUESTION NO: 3

UNDO表領域に関して真となるのはどちらのステートメントですか？

(2つを選択してください)

- A. データベースに複数のUNDO表領域を含めることができます
- B. UNDO_TABLESPACEパラメータは、自動および手動のUNDO管理の両方で有効です
- C. 取り消しセグメントは、必要に応じて自動的に増減し、割り当てられたトランザクションの循環ストレージバッファとして機能します
- D. UNDO_TABLESPACEパラメータが設定されておらず、データベース・インスタンスの起動中にUNDO_MANAGEMENTパラメータがAUTOに設定されている場合は、UNDO表領域が自動的に作成されます

Answer: A,C

QUESTION NO: 4

どの2つのステートメントは、表領域に関して真ですか？（2つを選択してください）

- A. 複数のデータベースにまたがることができます
- B. 複数のデータファイルで構成できます
- C. 異なるファイルのブロックを含むことができます
- D. 異なるサイズのセグメントを含むことができます
- E. それは、非分割セグメントの一部を含むことができる

Answer: B,D

QUESTION NO: 5

SYSTEMとSYSAUXの表領域はどちらが正しいですか？

- A. 一時表領域が定義されていない場合は、両方の表領域を一時記憶に使用できます
- B. データベースがアクセス可能になるには、両方の表領域がオンラインである必要があります
- C. SYSAUX表領域は読取り専用にすることはできますが、SYSTEM表領域にはできません。
- D. SYSTEM表領域にはデータ・デイクシヨナリ表のみが含まれます。

Answer: C

QUESTION NO: 6

データベースインスタンスは過去1か月間機能しています。

自動ワークロード・リポジトリ (AWR) のスナップショットの保存期間は7に設定され、STATISTICS_LEVEL初期化パラメータはTYPICALに設定されます。

前日の午後7時から9時の間のデータベースのパフォーマンス低下に関する苦情を受け取ります。問題を診断するために最初に参照できる2つのアクションを選択します。

（2つを選択してください）

- A. アクティブセッション履歴レポートを使用します。
- B. AWR期間比較レポートを使用します。
- C. 前日の午後7時から9時の間のADDM分析を使用します。
- D. 前日の午後7時から9時の間のAWR Compare Periodレポートを使用してください。

Answer: B,C

QUESTION NO: 7

展覧会を参照してください：

Select	Name	Allocated Size(MB)	Space Used(MB)	Allocated Space Used(%)	Allocated Free Space(MB)	Status	Datafiles	Type	Extent Management	Segment Management
<input type="checkbox"/>	EXAMPLE	100.0	77.8	77.8	22.2	✓	1	PERMANENT	LOCAL	AUTO
<input type="checkbox"/>	MYTBS1	5.0	4.6	92.5	0.4	✓	1	PERMANENT	LOCAL	AUTO
<input type="checkbox"/>	MYTBS2	5.0	0.3	6.2	4.7	✓	1	PERMANENT	LOCAL	AUTO
<input type="checkbox"/>	SYSAUX	911.0	867.1	95.2	43.9	✓	1	PERMANENT	LOCAL	AUTO
<input type="checkbox"/>	SYSTEM	720.0	711.4	98.8	8.6	✓	1	PERMANENT	LOCAL	MANUAL
<input type="checkbox"/>	TEMP	52.0	0.0	0.0	52.0	✓	1	TEMPORARY	LOCAL	MANUAL
<input type="checkbox"/>	UNDOTBS1	115.0	7.6	6.6	107.4	✓	1	UNDO	LOCAL	MANUAL
<input type="checkbox"/>	USERS	15.0	13.4	89.2	1.6	✓	1	PERMANENT	LOCAL	AUTO

どの文がUSERS表領域に関して真ですか？（該当するものをすべて選択してください）

- A. フリー・エクステントを記録するためにビットマップが使用されます。
- B. 空きエクステント情報は、表領域内で管理されます。
- C. フリー・エクステント情報はSYSAUX表領域で管理されます。
- D.

エクステントが割り当てまたは割り当て解除されると、データ・ディクショナリ表が更新されます

Answer: A,B

QUESTION NO: 8

データベースがダウンしています。

ユーザーSYSとしてログインし、次のコマンドを発行します。

SQL>STARTUP

このコマンドを実行した結果、どのステップがどの順序で実行されますか？

- A. インスタンスのみが開始されます。
- B. インスタンスが起動され、データベースはマウントされますが開かれません。
- C. インスタンスが起動され、データベースがマウントされ、最後に開かれます。
- D. インスタンスが起動された後、データベースがオープンされ、最後にマウントされます。

Answer: C

QUESTION NO: 9

どの2つのアクティビティがデータ復旧アドバイザー（DRA）によってサポートされていないのですか？（2つを選択してください）

- A. RAC環境での障害から回復します。
- B. オンラインでデータファイルの破損を診断および修復します。
- C. オフラインでデータファイルの破損を診断および修復します。

D. スタンバイ・データベースで障害を診断および修復します。

Answer: A,D

Explanation:

Data Recovery Advisor

The Data Recovery Advisor automatically gathers data failure information when an error is encountered. In addition, it can proactively check for failures. In this mode, it can potentially detect and analyze data failures before a database process discovers the corruption and signals an error. (Note that repairs are always under human control.) Data failures can be very serious. For example, if your current los files are missing, you cannot open your database. Some data failures (like block corruptions in data files) are not catastrophic because they do not take the database down or prevent you from opening the Oracle instance. The Data Recovery Advisor handles both cases: the one when you cannot start up the database (because required database files are missing, inconsistent, or corrupted) and the one when file corruptions are discovered during run time.

Supported Database Configurations

In the current release, the Data Recovery Advisor supports single-instance databases.

Oracle Real Application Clusters databases are not supported.

The Data Recovery Advisor cannot use blocks or files transferred from a standby database to repair failures on a primary database. Furthermore, you cannot use the Data Recovery Advisor to diagnose and repair failure on a standby database. However, the Data Recovery Advisor does support failover to a standby database as a repair option (as mentioned above).

QUESTION NO: 10

Oracle Data

Pumpは外部表を使用し、表のエクスポート中にダイレクト・パス・ロードを使用しない状況はありますか？（該当するものをすべて選択してください）

- A. 表がクラスタ内にない場合
- B. 表にアクティブなトリガーがある場合
- C. 表に暗号化された列がある場合
- D. 表にデータ型LONGの列が定義されている場合
- E. 表に参照整合性制約が定義されている場合

Answer: B,C,E

QUESTION NO: 11

Oracle Grid InfrastructureおよびOracle Databaseをインストールする予定です。

これらのインストールを実行する前に、必須の2つのタスクを完了する必要がありますか？（2つを選択してください）

- A. Oracleインストールの所有者になるオペレーティング・システム・ユーザーを作成する
- B. ORACLE_BASE環境変数を既存のディレクトリに設定する
- C. operおよびasmdbaオペレーティング・システム・グループの作成
- D. オペレーティング・システムにOracle InventoryおよびOSDBAグループを作成する
- E. ORACLE_SID環境変数を設定する

Answer: A,D

QUESTION NO: 12

どの2つのステートメントがチェックポイントについて正しい？
(2つを選択してください)

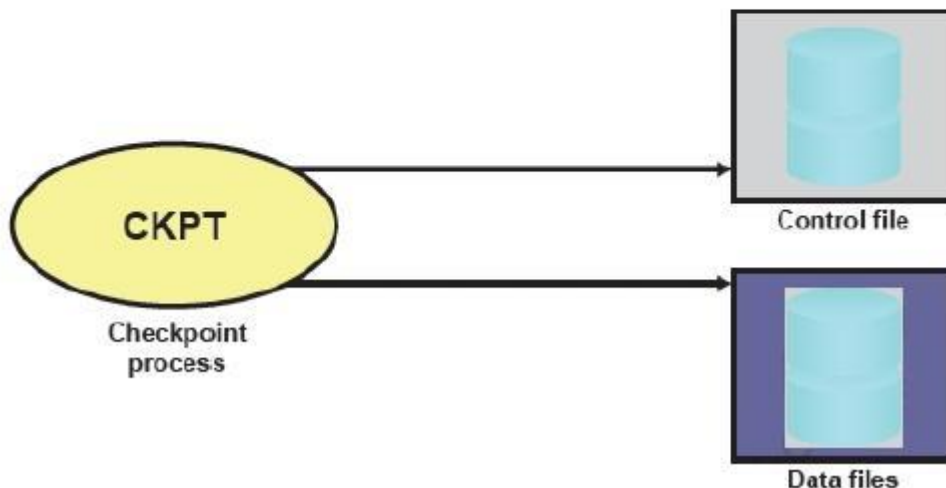
- A. チェックポイント頻度は、REDOログ・ファイルのサイズが小さいほど小さくなります。
- B. 通常のシャットダウン時にコミットされたすべてのデータがデータファイルに確実に書き込まれます。
- C. データベースのチェックポイントが頻繁に頻繁に発生すると、データベースのパフォーマンスが全体的に低下する可能性があります。
- D. データファイルにデータを書き込み、オンラインREDOログファイルに情報をやり直すためのチェックポイント (CKPT) プロセスを要求します。

Answer: B,C

Explanation:

Checkpoint Process (CKPT)

- **Records checkpoint information in**
 - **Control file**
 - **Each data file header**



Checkpoint Process (CKPT)

A checkpoint is a data structure that defines a system change number (SCN) in the redo thread of a database. Checkpoints are recorded in the control file and in each data file header. They are a crucial element of recovery.

When a checkpoint occurs, Oracle Database must update the headers of all data files to record the details of the checkpoint. This is done by the CKPT process. The CKPT process does not write blocks to disk; DBWn always performs that work. The SCNs recorded in the file headers guarantee that all changes made to database blocks prior to that SCN have been

written to disk.

The statistic DDWR checkpoints displayed by the SYSTEM_STATISTICS monitor in Oracle Enterprise Manager indicate the number of checkpoint requests that have completed.

QUESTION NO: 13

HRユーザーは、次のようにスタンドアロン・プロシージャを作成し、そのプロシージャに対するEXECUTE権限を多くのデータベース・ユーザーに付与します。

```
CREATE OR REPLACE PROCEDURE create_dept ( v_deptno NUMBER, v_dname
VARCHAR2, v_mgr NUMBER, v_loc NUMBER)
```

```
BEGIN
```

```
INSERT INTO hr.departments VALUES (v_deptno, v_dname, v_mgr, v_loc);
```

```
END;
```

プロシージャの実行権限を持つユーザーは、表に対するINSERT特権を持っていなくても、DEPARTMENTS表にレコードを挿入できます。

プロシージャを正常に実行できるようにするには、DEPARTMENTS表に対する特権を持つユーザーのみが必要です。

これを達成するためにPL / SQL開発者に何をお勧めしますか？

- A. 定義者の権限でプロシージャを作成します。
- B. 呼び出し側の権限でプロシージャを作成します。
- C. 選択したユーザーにプロシージャのGRANT OPTIONを指定してEXECUTE特権を付与します。
- D. プロシージャをPL / SQLパッケージの一部として作成し、パッケージに対するEXECUTE権限を選択したユーザーに付与します。

Answer: B

QUESTION NO: 14

ご使用のデータベースのフラッシュ・リカバリ領域 (FRA) を構成しました。

データベースインスタンスはARCHIVELOGモードで実行されています。

アーカイブREDOログ・ファイルのデフォルトの場所は、フラッシュ・リカバリ領域です。

保存ポリシーに従ってFRAにスペースが必要な場合、自動的に削除されるファイルは2つありますか？ (2つを選択してください)

- A. フラッシュバック・ログ・ファイル
- B. 時代遅れになったバックアップ
- C. データファイルと制御ファイルのユーザー管理バックアップ
- D.

異なるアーカイブ・ロケーションに複数のコピーがあり、バックアップされていないアーカイブREDOログ・ファイル

Answer: A,B

Explanation:

Configuring the Flash Recovery Area

Flash recovery area:

- * Strongly recommended for simplified backup storage management
- * Space on disk (separate from working database files)
- * Location specified by the DB_RECOVERY_FILE_DEST parameter

- * Size specified by DB_RECOVERY_FILE_DEST parameter
- * Large enough for backups, archived logs, flashback logs, mirrored control files, and mirrored redo logs
- * Automatically managed according to your retention policy

Configuring the flash recovery area means determining location, size, and retention policy.

Configuring the Flash Recovery Area

The flash recovery area is a space that is set aside on the disk to contain archived logs, backups, flashback logs, mirrored control files, and mirrored redo logs. A flash recovery area simplifies backup storage management and is strongly recommended. You should place the flash recovery area on a disk that is separate from the working set of database files.

Otherwise, the disk becomes a single point of failure for your database.

The amount of disk space to allocate for the flash recovery area depends on the size and activity levels of your database. As a general rule, the larger the flash recovery area, the more useful it is. Ideally, the flash recovery area should be large enough for copies of your data and control files and for flashback, online redo, and archived logs needed to recover the database with the backups kept based on the retention policy. (In short, the flash recovery area should be at least twice the size of the database so that it can hold one backup and several archived logs.) Space management in the flash recovery area is governed by a backup retention policy. A retention policy determines when files are obsolete, which means that they are no longer needed to meet your data recovery objectives. The Oracle database automatically manages this storage by deleting files that are no longer needed.

QUESTION NO: 15

次のコマンドを実行して、USERS表領域のバックアップを実行しました。

```
SQL> ALTER TABLESPACE users BEGIN BACKUP;
```

```
ALTER TABLESPACE users BEGIN BACKUP
```

* ERROR at line 1:

ORA-01123 : オンライン・バックアップを開始できません。

メディアリカバリが有効でない

このエラーの原因は何でしょうか？

- A. MTTR Advisorは無効になっています。
- B. データベースはNOARCHIVELOGモードです。
- C. 表領域はすでにバックアップ・モードになっています。
- D. フラッシュリカバリ領域が設定されていません。

Answer: B